

生産情報

農業振興課 二上 拓哉



○りんごの生育状況

今年の積雪状況は3月29日の調査で管内ほぼ全ての調査地点で消雪が確認され、昨年よりも2週間程早い消雪となりました。

ふじの発芽は、4月4日には管内全域で確認され、昨年より5日〜7日ほど早い生育となっております。

開花については、気温は平年並みに推移した場合、黒石のりんご試験場で、ふじでは5月5日頃と予想されます。4月下旬の気温は平年より高く推移すると予想されており、生熊が早まると考えられることから、春の作業の準備を早めに行いましょう。

○春の低温に注意

開花期から幼果期における降霜や、低温による凍霜害の発生が懸念されることから、防霜ファンを設置している園地では機器の始動点検を行い、稼働状況を確認して下さい。防霜ファンを設置していない園地では燃焼資材の準備を行い、

被害の軽減に努めて下さい。燃焼資材を使用する場合は周辺環境にも十分に配慮しましょう。

○良品果実生産にむけて

高品質かつ大玉果実生産にむけて授粉を積極的に行いましょう。授粉作業を行うことで結実量を安定的に確保し、奇形果実となるのを防ぎます。

人工授粉を行う場合は、交雑和合性に注意し、中心花を主体に早く咲いた花から行いましょう。

○展葉一週間後頃の薬剤散布

りんごの生育が早めに経過していることから『展葉一週間後頃』の薬剤散布は早い地区で、4月20日頃になる見込みです。黒星病は昨年同様に菌密度が高い状況と考えられます。

そこで、薬剤による防除効果を最大限活かすために、昨年、黒星病被害が特に多く見られた園地の原因を、事例として紹介します。

■散布間隔が10日以上あった。

※昨年と同様に黒星病対策の薬剤は予防効果のみとなりますので、雨前防除で散布間隔はしっかりと守りましょう。

■散布量が少なかった。

※散布量が少ないと、薬液が葉に付着する量も少なく、内枝などには掛かっていないことが考えられるので適量散布に努めましょう。

■風が強い日の薬剤散布。

※風が強い日に散布をした場合、樹全体にまんべんなく薬がかかることが困難となり、散布ムラによつて黒星病の感染が広がってしまうので風の強い日の薬剤散布は控え、出来る限り無風に近い日に散布しましょう。

これらの事例を踏まえて丁寧な薬剤散布を行い、黒星病の被害を最小限に抑制しましょう。

農作業が本格的に始まっていきます。機械による作業は特に気をつけて行いましょう。

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
1	250%	芽出し当時	ベフラン	1,000倍	黒星病対策
2	300%	展葉1週間後頃	ベフラン ダズバンDF マシン油	1,000倍 3,000倍 200倍	○混用順序 ①水→②マシン油→③ダズバン→④ベフラン
3	320%	開花直前	フルーツセイバー 又はユニックス顆粒 アタブロンSC	2,000倍 1,000倍 4,000倍	○黒星病の重要防除時期のため、散布量・散布間隔(10日)を厳守する。 ○殺虫剤は、開花直前・落花直後とも同一薬剤を連続散布する。
4	350%	落花直後	ユニックス顆粒 ジマンドイセン アタブロンSC 果面保護剤	2,000倍 600倍 4,000倍	

りんご病害虫防除暦 (第1回目〜4回目)